小池辰雄著作集 第五巻 『百世の師ヒルティー』

おわりに

本巻『百世の師ヒルティー』の第一から第三までは『提言』（主筆、出射義夫教授）という月刊誌に、１９７４年（昭和４９年）５月より丁度二年間、１９７６年（昭和５１年）４月まで、「百世の師ヒルティー」と題して、執筆寄稿したものに基づいて編纂した。

ヒルティーの生涯を素描したあと、彼の主要著書にぶつかって、各著書の本質を自らつかみ、ヒルティーの精神と思想を説きつつ、筆者自身の告白をそこに織りこんだ。原書からの引用文は、原則として白水社版『ヒルティー著作集』の各巻の訳文に依った。ここに、各巻各項の訳者である氷上英廣、斎藤栄治、前田護郎、杉山好、登張正実、小塩節、岸田晩節、国松孝二、菊盛英夫の諸氏に感謝の意を表する。但し、『眠られぬ夜のために』上巻、『永遠の生命』、『力の秘密』は筆者が訳したので、それを用いた。

後半に掲載した『眠られぬ夜のために』上巻抄訳は、紙数の関係もあって極めて少量しか載せられなかったが、この中にヒルティーの本質躍如たるものがある。『永遠の生命』、『力の秘密』は、解説にも記したように、ヒルティー晩年の珠玉姉妹篇で、不滅の文字というべきであろう。その全訳を載せることを快諾してくれた白水社の好意に感謝している。

ヒルティー自身の望むところは、彼の著作を通して、読者が聖書そのものに親しまれんことであるにちがいない。読者は、文中の聖書引用の箇所に来たら、出来るだけ聖書を開いて、引用句のみでなく、その前後を読んで有機体的に把握されんことを。

 １９７７年８月１日 小池辰雄